
居眠りには、ご用心？

春蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

居眠りには、ご用心？

【Nコード】

N1228B

【作者名】

春蘭

【あらすじ】

昼休みの屋上、幼馴染みとふたりきり。眠った彼、私の想い。このくらいの意地悪、させてよね？

(前書き)

青春スクールラブ

「アイツ…!!」

俺はガバツ！と、起き上がり口もとに手をそえる。心臓が大きな音をたてうるさい。きっと今の俺の顔は、誰がどう見ても真っ赤だろう。

居眠りには、ご用心？

穏やかな陽射しの中、私達は屋上で昼食をとっていた。と言っても、コーヒー牛乳とパンだけ食べ、隣で彼は寝息を立てている。起こすのも悪いと思うし、それにいつもの事なので、私はそれをどうかしようとは思わなかった。

（間抜け面だなあ…。）

幸せそうに眠る彼。一体どんな夢を見ているのやら。

付き合ってなんか、ない。『只の幼馴染み』、それが私達の言い分。そして、紛れもない真実。——彼にとっては。

（片想いつて、こんな切なかつたんだ。）

側にいるのに、触れない。彼氏？と聞かれても、否定だけ。恋愛対象にも入らない。なんて不利な位置。

そんな私の心情なんて知らず、呑気に眠るコイツ。ああ、正直うんざりする。まるで一方通行。

（なんか、ム力つく。）

悔しさがこみあげる。思いきり友達感覚か？女となんて、きつと見られてない。

ため息がこぼれる。そういえば、ため息は幸せが逃げる、とか彼は言ってた。…逃げるんじゃないくて、もう逃げたからため息出らんじゃない。しかも、アンタのせいだ。

「うつ…ん……」

声をもらす彼。ちょっとドキツとしたけど、まだ眠ってるよう。無防備な寝顔は、信頼の証？私だって、好きな奴が目の前で寝てたら、理性利かないんだから。

ふと、いいことを思いついた。…一般的には良からぬ事なんだけど。

（このくらいの悪戯、許してよね。）

彼の柔らかい頬に両手をそえる。『むにっ』と、軽くつまんでみ

た。…起きない。今度はもっと、強めに。少し顔をしかめたけど、やっぱり起きない。熟睡状態だ。

（これなら、大丈夫。）

念じる様に、自分にいいかけた。

彼の漆黒の髪を一房掴み、キスを落とす。それから頬に、額に、
脛に…。

（…止まらないかも。）

軽くやるだけのつもりが、やみつきになってしまった。このままでは、気が済むまで触ってしまいそう。それはさすがにまずい。

（あと、少しだけ。）

彼の首筋に顔をうずめる。ペロリと舐め、軽く吸い付く。

「ふふ、痕はさすがに付けないよ。」

そう言っ、彼の唇にちゅっ、と優しく口づけた。

「さて…と、そろそろ教室戻らなきゃ。」

私は立ち上がり、踵を返す。最後にくるりと振り向いて

「授業遅れるなよ!!」

眠ってる彼に叫んだ。

その後彼が真っ赤になって慌てるのも、実は途中から起きていた
というのも、私は知らない。

屋上から見える空は快晴日和

（後書き）

どうだったでしょうか？甘酸っぱいを目指してみました！なんか気に入ったので、続編みたいな形で、またこのふたりの話作りたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1228b/>

居眠りには、ご用心？

2010年11月27日07時02分発行